

## 株主メモ

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで  
定時株主総会 3月  
基準日  
定時株主総会 12月31日  
期末配当金  
中間配当金 6月30日  
(中間配当を実施する場合)  
その他 必要ある場合は、取締役会の決議により、あらかじめ公告いたします。

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社  
特別口座の口座管理機関  
同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
東京都府中市日鋼町1-1  
電話 0120-232-711 (通話料無料)  
郵送先 〒137-8081  
新東京郵便局私書箱第29号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

単元株式数 100株  
公告の方法 電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。  
公告掲載URL  
[https://www.tok.co.jp/company/public\\_notice.html](https://www.tok.co.jp/company/public_notice.html)  
上場取引所 株式会社東京証券取引所 市場第一部  
証券コード 4186

## ご注意

- 株主様の住所変更、単元未満株式(100株未満の株式)の買取請求その他各種手続きにつきましては、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。なお、株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお取り扱いさせていただきます。
- 未受領の配当金につきましては、当社定款の規定により、支払開始日より満3年を経過いたしますと配当金をお受け取りいただけませんので、お早めに最寄りの三菱UFJ信託銀行本支店でお受け取りください。

## 株式に関するお手続きについて

### 特別口座に登録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問い合わせ先
■特別口座から一般口座への振替請求 ■単元未満株式の買取・買増請求 ■住所・氏名等のご変更 ■特別口座の残高照会 ■配当金の受領方法の指定(注)	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
■郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ■支払期間経過後の配当金に関するご照会 ■株式事務に関する一般的なお問い合わせ	株主名簿管理人 手続き用紙のご請求方法 ■ご請求 電話 0120-232-711 (通話料無料) ■インターネットによるダウンロード <a href="https://www.tr.mufg.jp/daikou/">https://www.tr.mufg.jp/daikou/</a>

(注) 特別口座に登録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として「株式数比例配分方式」はお選びいただけません。

### 証券会社等の口座に登録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問い合わせ先
■郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ■支払期間経過後の配当金に関するご照会 ■株式事務に関する一般的なお問い合わせ	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
■上記以外のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。

## 表紙解説

当社グループは、企業PRの一環として新聞、駅、空港への広告活動を実施しています。本中間報告書では、今年度の広告デザインを表紙に採用いたしました。本広告は羽田空港国際線ターミナルでもご覧いただけます。



## tok 東京応化工業株式会社

〒211-0012 神奈川県川崎市中原区中丸子150番地  
電話 044-435-3000 (代表)



ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。

# 第90期 中間報告書

2019年1月1日~  
2019年6月30日



証券コード4186

感動を創造する企業をめざして  
tok 東京応化工業株式会社



代表取締役 取締役社長

種市 順昭

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに第90期第2四半期連結累計期間(2019年1月1日から2019年6月30日まで)の業績および当社グループにおける今後の取組みにつきましてご報告申し上げます。

### 第90期第2四半期における市場環境および当社の業績について

当社グループは、「高付加価値製品による感動(満足できる性能、コスト、品質)を通じて、世界で信頼される企業グループを目指す。」という経営ビジョンの下、2021年度を最終年度とする3カ年の中期計画「tok中期計画2021」を始動させ、成長軌道への回帰を目指しております。

当上期における世界経済は、保護主義的な経済政策の台頭やそれに伴う米中通商摩擦の懸念が一部で顕在化したことにより、アジア地域を中心に弱い動きも見られました。この情勢を背景にエレクトロニクス産業につきましては、スマートフォン需要の落ち込みに加え、データサーバー市場の成長が鈍化しております。

このような市場環境を受けて、当上期の材料事業の売上高は、エレクトロニクス機能材料は前年同期と同水準の売上となりましたが、高純度化学薬品の売上が減少したことにより前年同期を下回りました。一方で装置事業

は、受注済み装置の検収により、売上は前年同期を上回りましたが、受注につきましては、ユーザーにおける生産能力の増強投資が抑制されていることから前年同期を大幅に下回りました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は前年同期と比較し18億15百万円減少した489億32百万円(前年同期比3.6%減)となりました。

材料事業の利益面は、3D-NAND向け厚膜KrF(フッ化クリプトン)フォトレジストやMEMS(微小電気機械システム)材料、EUV(極端紫外線)フォトレジストなどの高付加価値製品の売上増加による増益効果が7億円ありましたものの、製品売価の値引きや製造固定費の増加等による影響があったため、当上期の材料事業の営業利益は前年に比べ2億円の減益となる64億23百万円(同3.5%減)になりました。

一方装置事業は、前年同期に比べ50百万円改善したものの、2億70百万円の営業損失となりました。

この結果、当上期の営業利益は、前年同期に比べ2億46百万円の減益となる44億28百万円(同5.3%減)となりました。

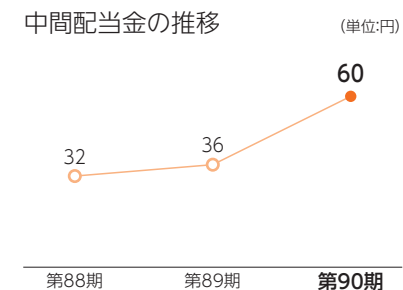
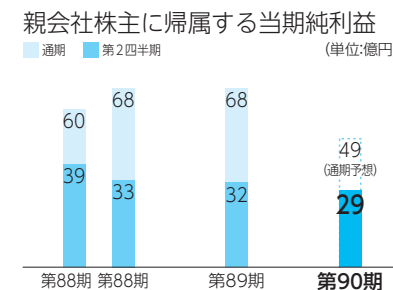
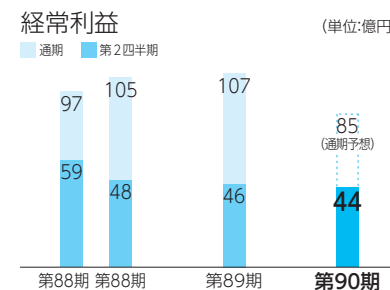
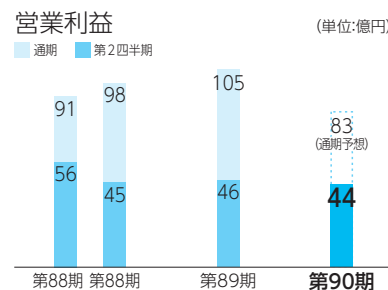
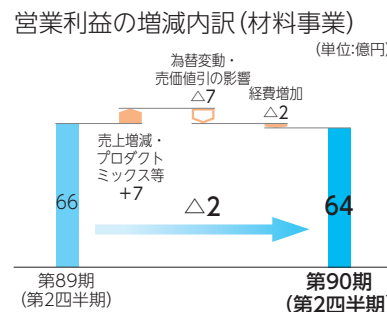
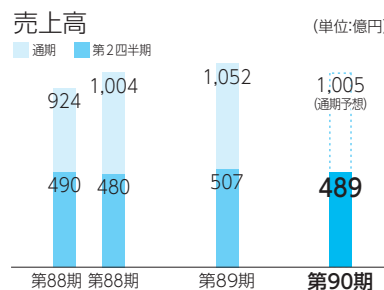
また、経常利益は44億7百万円(同5.7%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は29億24百万円(同8.9%減)となりました。

### 当期の配当方針について

当社は、株主様に安定的かつ継続的な利益還元を実施するため、従来の「連結配当性向40%以上の配当の継続」から、2018年12月期末配当分より「DOE(連結純資産配当率)3.5%を目処とする」配当方針に変更しております。従いまして当期の中間配当金は、株主の皆様の日頃のご支援にお応えするため、1株当たり60円を継続することとしました。

今後も、株主の皆様のご期待に応えられるようグループ一丸となって邁進してまいりますので、株主の皆様におかれましては、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### 財務ハイライト



第88期より決算期を毎年3月31日から毎年12月31日に変更したため、第88期につきましては2017年4月1日から2017年12月31日までの9カ月間の変則決算となります。第88期暦年補正は、第88期の実績を当年度と同一期間に調整したものであります。

### 第90期通期の見通しについて

米中通商摩擦による個別企業への輸出規制による影響等により半導体市場は、不安定な状況で推移しています。

このような状況の下ではありますが、下期の材料事業は、市場環境の緩やかな回復を見込んでおり、エレクトロニクス機能材料は横ばい、高純度化学薬品においては上期を上回るものと予想しています。一方で通期の売上高に関しては、半導体市場の減速を受けて、前年を下回る見込みです。また、営業利益も、売上高の減少によ

る影響に加え、為替による影響などを受けるため、前年を下回る見込みです。

装置事業の売上高は、ウエハハンドリング装置に加えプラズマアッシング装置の売上増加を見込み、前年比12億円増加の39億円を計画しています。

以上のような状況を踏まえ、2019年12月期の通期連結業績予想につきまして、期初に予想していた数値を修正し、下表の通りを予想しております。

### 第90期通期の見通し

(単位:百万円)

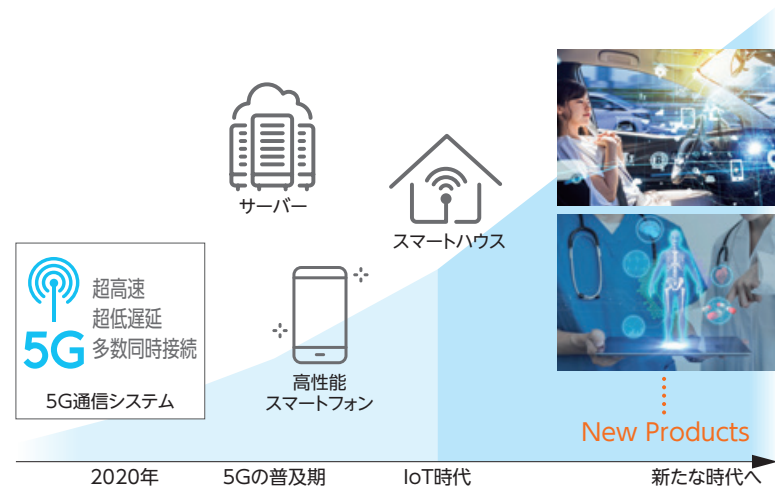
	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
第90期(予想)	100,500 (前期比 4.5%減)	8,300 (前期比 21.0%減)	8,500 (前期比 20.8%減)	4,900 (前期比 28.7%減)

### 中期計画2021の達成に向けて

2020年からはじまる次世代通信規格5GやIoTが実用化されると、新たなインフラや電子機器などに、これまでよりも高性能な半導体素子(センサ、LSIなど)が大量に使われることとなります。このため、半導体素子市場は、今後も拡大するとされています。

このビジネスチャンスに対して当社グループは、フォトレジストなどの既存材料の拡販に加え、顧客ニーズに合った高品質、高性能新規製品のタイムリーな上市を推進することで、お客様と社会の期待に「化学で応える」東京応化としてさらなる事業の拡大に邁進してまいります。

### TOKの成長機会



## 生活に寄り添う tok の技術

我々の生活はこの50年で大きく変わりました。この変化には半導体素子(IC、LSI)の進歩が大きく関わっています。たとえば電話は、固定電話から持ち運べる携帯電話になり、さらに今では多機能で便利なスマートフォンになりました。

このスマートフォンは、電話、カメラ、電子メール、時計や電卓などのさまざまな機能を備えています。それは、スマートフォンの中にある10mm角ほどの半導体素子に、

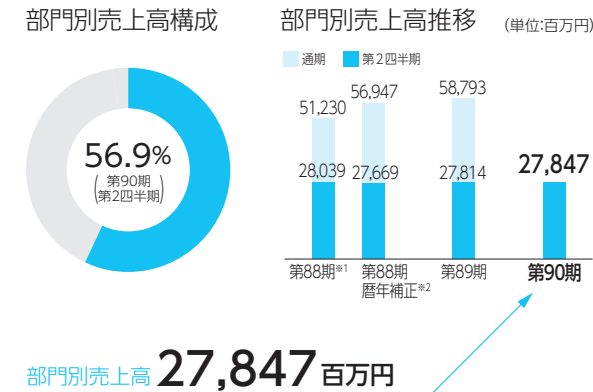
これらの機能が収められているおかげです。そしてこの半導体素子も進化し続けてきました。その進化を支えた半導体素子の製造技術の一つが、回路や素子を『集積』する技術です。東京応化はこの『集積』のためのお手伝いを50年以上続けてきました。

東京応化の製品は皆様の目に触れることはありませんが、我々の技術は見えない力で、いつも皆様の生活のそばに寄り添っています。



材料事業

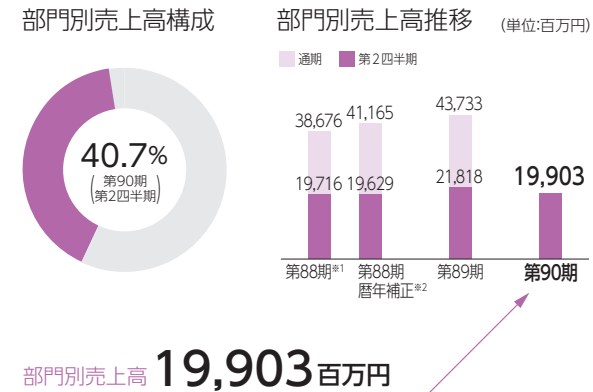
エレクトロニクス  
機能材料部門



厳しい市場環境においても三次元メモリ向けの厚膜KrFフォトレジストや、電子部品向けの高密度実装材料の売上が堅調に推移しました。加えて、AIや次世代スマートフォンなどに使われる最先端半導体向けにEUVフォトレジストの売上も増加しております。

この結果、本部門の売上高は、前年同期と同水準の278億47百万円(前年同期比0.1%増)となりました。

高純度化学薬品  
部門

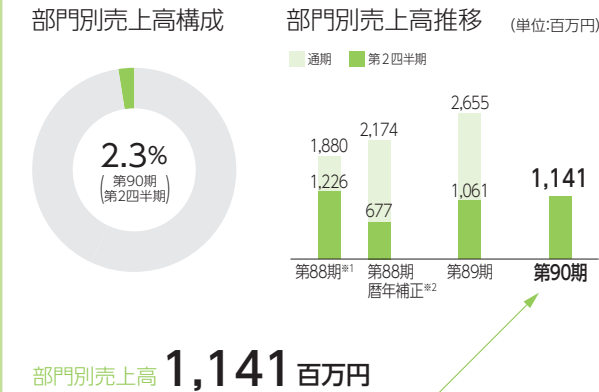


スマートフォンやデータサーバー市場の成長鈍化によるアジア地域における半導体生産量の減少の影響を受けたため、半導体製造プロセスに使用される半導体用フォトレジスト付属薬品の販売が減少しました。

この結果、本部門の売上高は、前年同期を下回る199億3百万円(同8.8%減)となりました。

装置事業

プロセス機器  
部門



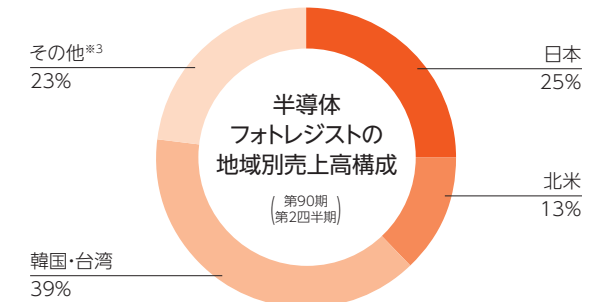
ウエハハンドリング装置の売上高は、前年同期を下回りましたが、車載等に用いられる半導体製造に使われる受注済みのプラズマアッシング装置の検収が進みました。

この結果、本部門の売上高は、前年同期を上回る11億41百万円(前年同期比7.5%増)となりました。一方で受注は、スマートフォンやデータサーバー需要の鈍化の影響を受け、前年同期を大幅に下回りました。

※1 第88期は決算期変更のため、国内4-12月の9ヵ月、海外1-12月の12ヵ月となります。  
※2 第88期暦年補正は、第88期の実績を当年度と同一期間に調整したのとなります。

半導体フォトレジストの  
地域別売上高推移

「日本」地域の割合は、三次元メモリ向けの厚膜KrFフォトレジストの売上が堅調に推移したため、前年同期と比較し、2%上回りました。一方で、「北米」や、「韓国・台湾」地域では、市場環境の悪化を受けたため、それぞれ前年同期を1%下回りました。



※3 その他は、欧州および中国を含む韓国・台湾以外のアジアからの構成になります。

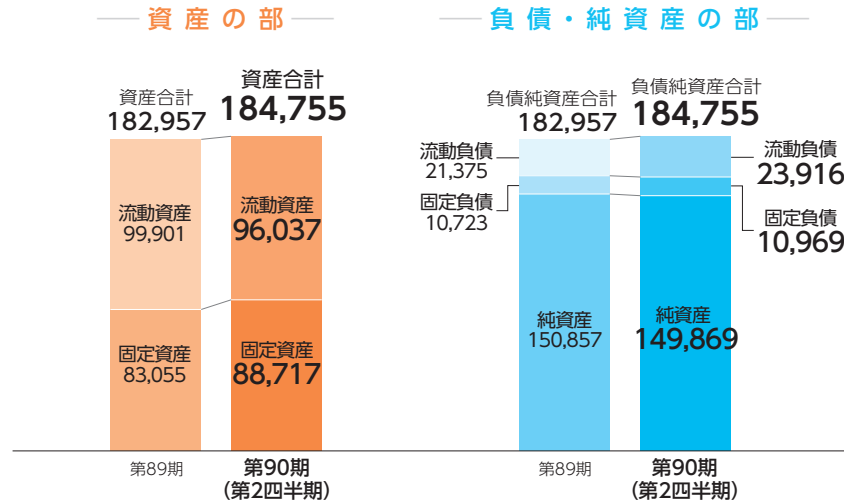
本業を通じて達成に取り組む  
SDGs目標

当社グループが提供する各種高付加価値製品は、国連が2015年に定めた持続可能な開発目標(SDGs)の達成に寄与しています。



連結貸借対照表の概要

(単位:百万円)



資産の部

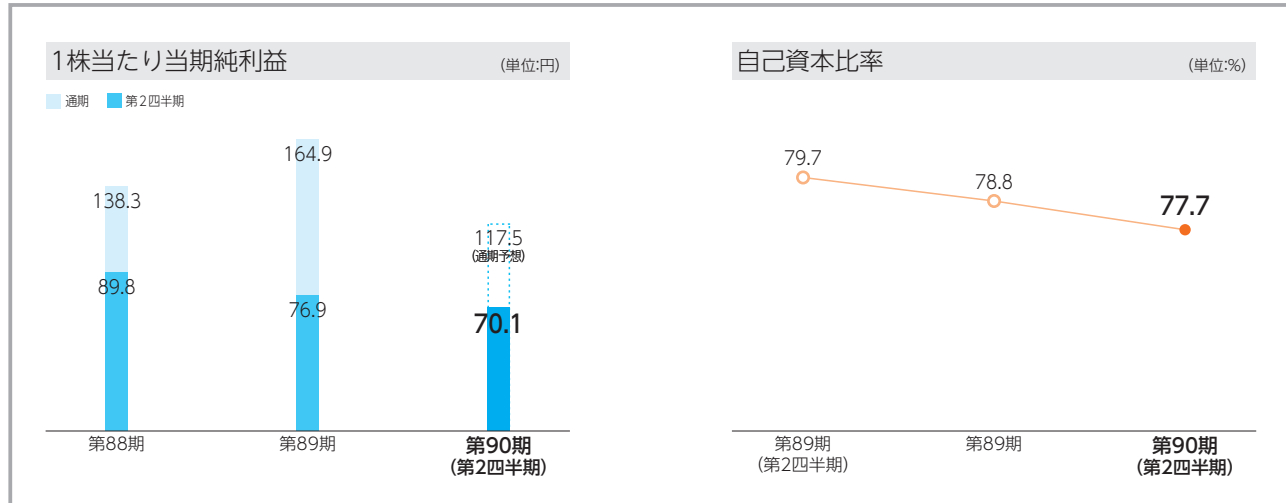
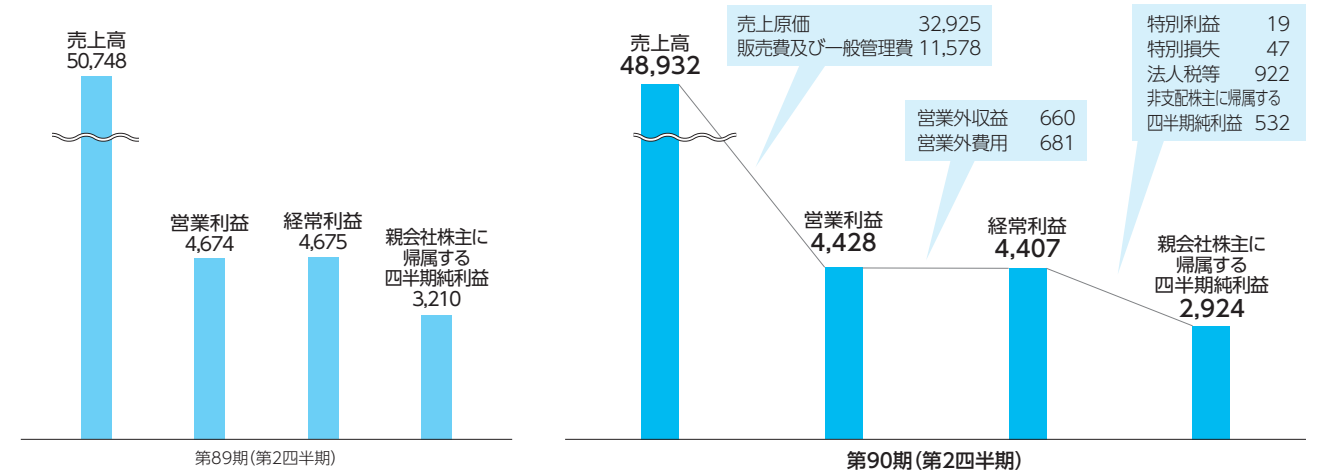
- ・有形固定資産の取得による現金及び預金と、売上債権の減少により流動資産の減少。(△38.6億円)
- ・有形固定資産の増加による固定資産の増加。(＋56.6億円)

負債・純資産の部

- ・設備関係未払金の増加により流動負債が増加。(＋25.4億円)
- ・為替換算調整勘定による純資産の減少。(△9.8億円)

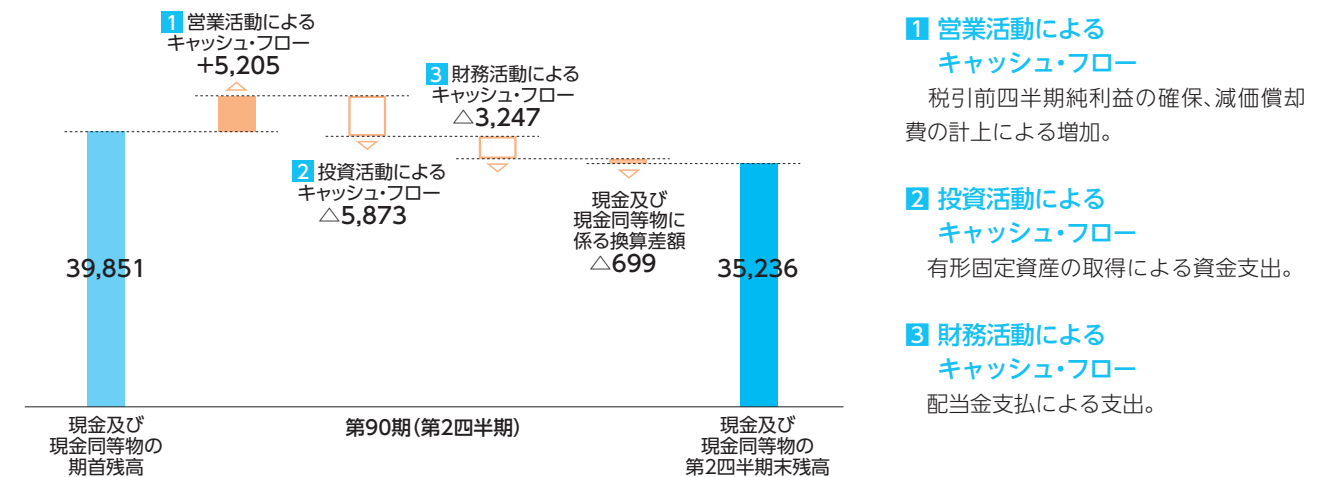
連結損益計算書の概要

(単位:百万円)



連結キャッシュ・フローの概要

(単位:百万円)



(注)「[税効果会計に係る会計基準]の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、第89期に係る連結貸借対照表及び自己資本比率については、当該会計基準等を遡及処理後の数値で記載しております。

## TOKの企業価値

(2018年度の外部表彰)

お客様に感動していただける製品の提供を目指す当社グループの取組みは、多くのお客様から表彰などの形で評価していただいています。昨年度は、インテル・コーポレーション(米国)をはじめ、テキサス・インスツルメンツ(米国)など名だたるお客様より栄えある賞をいただきました。

これを励みとし、今後も製品開発や品質向上などの取組みをさらに進め、顧客満足度の高い製品とサービスの提供に努めてまいります。



インテル・コーポレーション:SAA(サプライヤー・アチーブメント・アワード)

テキサス・インスツルメンツ:SEA(サプライヤー・エクセレンス・アワード)



## TOKのIR活動

### 個人投資家説明会を開催

当社グループの事業戦略・業績などの会社情報を株主や投資家の皆様にご理解いただくために、当社は適時、適正、かつ公平な情報開示を徹底し、積極的なIR活動に取り組んでいます。当上期は個人投資家の皆様との対話の場所として「個人投資家説明会」を東京、大阪、福山の3都市で開催し487名の皆様にご参加いただきました。下期は東京、大阪、京都、神戸、札幌での開催を予定しております。

### 統合レポートを発行

当社グループの事業活動をステークホルダーの皆様により深くご理解いただくために、昨年度まではCSRレポートとアニュアルレポートに分かれていた企業情報を、2019年12月期から一冊にまとめた統合レポートとして発行しました。本冊子は当社ホームページでもご覧いただけます。

<https://www.tok.co.jp/ir/library/annual>



### IRカレンダー

2019年				2020年		
9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
			第3四半期決算発表	第90回定時株主総会	通期決算発表	
個人投資家説明会						



今後もステークホルダーの皆様から信頼や共感を得られる企業グループを目指し、積極的な情報開示に努めてまいります。

その他の詳細情報は、当社ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。

## 株式の概況／会社概要 (2019年6月30日現在)

### 株式の状況

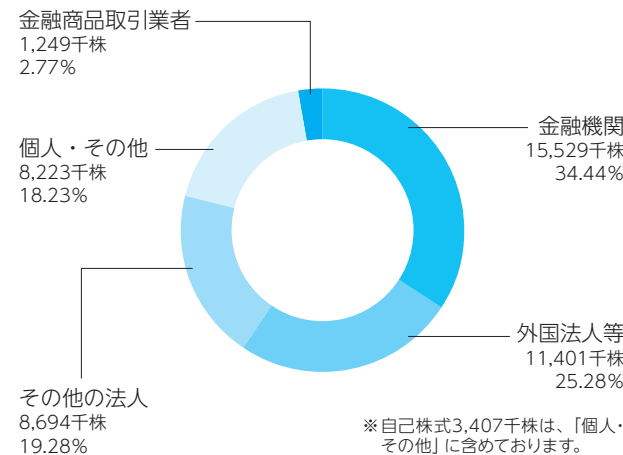
発行可能株式総数	197,000,000株
発行済株式の総数	45,100,000株 (自己株式3,407,525株を含む)
株主数	6,009名

### 大株主(上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,900	6.96
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,746	6.59
明治安田生命保険相互会社	1,826	4.38
MLPFS CUSTODY ACCOUNT	1,469	3.53
株式会社三菱UFJ銀行	1,207	2.90
日立化成株式会社	1,069	2.57
株式会社横浜銀行	1,026	2.46
公益財団法人東京応化科学技術振興財団	984	2.36
三菱UFJ信託銀行株式会社	953	2.29
三菱UFJキャピタル株式会社	860	2.06

※1 当社は、自己株式を3,407千株保有しておりますが、上記大株主から除いております。  
 ※2 持株比率は、発行済株式の総数から自己株式を除いた株式数(41,692,475株)を基準に算出しております。

### 所有者別株式分布状況



### 会社概要

社名	東京応化工業株式会社 TOKYO OHKA KOGYO CO., LTD.
設立	1940年10月25日
資本金	14,640,448,000円
従業員数	1,731名(連結) (当社グループから当社グループ外への出向者および嘱託者を除く)
本社所在地	〒211-0012 神奈川県川崎市中原区中丸子150番地 電話044(435)3000(代表)

### 役員

取締役および監査役			
代表取締役取締役会長	阿久津 郁夫	代表取締役取締役社長	種市 順昭
取締役	佐藤 市	取締役	柴村 洋
取締役	藤田 水	取締役	萩原 嘉
取締役	徳木 國	取締役	秋野 浩
取締役	山竹 信	取締役	入野 一生
取締役	山田 敬一	取締役	徳山 信敬
取締役	栗本 弘嗣	取締役	張山 俊史
取締役	関口 典子	取締役	佐藤 和裕
常勤監査役	藤下 一政	取締役	村上 土本
監査役	深田 一浩	取締役	井川 直
監査役	高橋 浩一	取締役	渡邊 直樹
監査役	竹内 伸行		

(注) 1 取締役栗本弘嗣氏、取締役関口典子氏は、社外取締役です。  
 2 監査役深田一政、監査役高橋浩一および監査役竹内伸行の各氏は、社外監査役です。

### 執行役員

※執行役員社長	開発本部長	種市 順昭
※専務執行役員	経理財務本部長	佐藤 洋
専務執行役員	経営企画本部長	萩原 嘉
※常務執行役員	総務本部長	秋野 浩
常務執行役員	台湾東應化股份有限公司 董事長兼總經理	入野 一生
※執行役員	材料事業本部長	徳山 信敬
※執行役員	営業本部長	張山 俊史
執行役員	TOK先端材料株式会社 代表理事社長	佐藤 和裕
執行役員	開発本部副本部長	村上 土本
執行役員	材料事業本部副本部長	井川 直
執行役員	新事業開発本部長	
執行役員	プロセス機器事業本部長	
執行役員	営業本部副本部長	

(注) ※印を付した執行役員は、取締役を兼務しています。